

令和4年度 第2回第2期和光市スポーツ推進計画策定委員会 会議録（要録）

1 日 時 令和4年6月28日（火）19時00分～21時00分

2 場 所 和光市役所 3階 庁議室

3 出席者 10名

委員名	選任の区分	備考	出欠席
◎飯田 路佳	第1号委員 (学識経験を有する者)	十文字学園女子大学人間生活学部 健康栄養学科	○
大多賀 政昭		国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部	○
横島 秋男	第2号委員 (市内関係団体を代表する者)	和光市スポーツ協会	○
○朽木 亮		和光市スポーツ推進委員連絡協議会	○
冨澤 勝広		和光市スポーツ少年団本部	○
藤 律之		和光市小中学校長会	○
荒木 保敏		和光市社会福祉協議会	○
山崎 岩男		和光市生きいきクラブ連合会	×
新井 悦子		和光市青少年を育てる会連合会	○
鷹栖 藍太郎	第3号委員 (公募による市民)		○
尾野 日登美			○

◎委員長 ○副委員長

（事務局）スポーツ青少年課 鈴木課長・森谷課長補佐・小林統括主査・木村主事

4 傍聴者 なし

議題1 第2期和光市スポーツ推進計画策定までのスケジュールについて

【事務局】

現時点では、策定委員会については本日を含め今後9月下旬・11月下旬・2月上旬に開催を予定しております。本日の会議では現計画の振り返りおよびアンケート内容の決定、9月及び11月の会議では計画内容の調整、2月会議にて計画の最終確認を行う予定です。

事務局としましては、会議の間に庁内検討委員会やアンケート調査、意見交換会、パブリックコメント等を行い、今後の会議における詳細な資料提供を行えるよう作業を行ってまいります。

なお、今回会議のスケジュールについて調整作業を行う中で、意見回収および修正の機会として策定委員会の回数が9月・11月の2回で足りるかどうか懸念される意見もあったことから、パブリックコメントを1月に実施をすらしうえ、12月に再度策定委員会を開催するスケジュールも別添資料のとおり検討しております。どちらのスケジュールで今後作業を進めていくか、策定委員会にて協議していただければと思います。

【 委員長 】

事務局より会議回数を12月に1度増やすかどうかについてお話がありました。

当初の予定では、今後の会議予定は9月・11月に1回ずつ開催した後パブリックコメントを経て、最後は最終確認のみ行い教育委員会への報告となります。

パブリックコメントまでにさらにもう一度策定委員会によるチェックが必要かどうかがこの議題の焦点となりますが、皆様のご意見をいただければと思います。

よろしくお願いいたします。

【 事務局 】

補足説明いたしますと、9月の会議についてはあくまで計画における概要及び枠組みの説明になり、各課の施策や目標については触れない形となります。

次の委員会で素案という形で各課の施策や数値目標等を提案する予定です。

【 委員長 】

具体的な目標や数値が入るのは11月ということですね。11月の策定委員会を受けて再度庁内検討委員会にて調整が行われるかどうか、ということになります。当初の予定のままの場合、11月の策定委員会を受けてすぐにパブリックコメントに入ることになるかと思いますが、策定委員会にて責任を以って計画策定を進めていくにあたりどちらの方がよろしいか、ということになります。

【 富澤委員 】

策定委員会と庁内検討委員会の関わりがよく見えてこないのですが、骨子案の確認修正は庁内検討委員会で行い、それをもとに策定委員会にて議論するという形でしょうか。

あと、4月中旬から6月下旬まで現計画の取組状況の確認を行っておりますが、その結果は策定委員会には上がってこないのでしょうか。

説明をお願いします。

【 事務局 】

庁内検討委員会と策定委員会の関係性については、庁内にて各施策等の計画内容の設定が行われていますので、まず庁内検討委員会にて計画内容をまとめあげ、それを策定委員会にて確認していただくという形になります。

現計画の取組状況については、この後の議題にて改めて説明させていただきます。

【 富澤委員 】

現計画をもとに第2期計画内容を庁内検討委員会が検討していくということですか。

【 委員長 】

おそらく富澤委員がおっしゃっていることとしては、アンケート結果が出てから庁内検討委員会を通るにあたりこういったことが議論されるか、について疑問に思われているのでしょうか。

【 事務局 】

庁内検討委員会においては、次期計画の課題や数値目標を設定するにあたっての骨子について先に確認を行ってもらう予定です。アンケートの集計結果の分析も含めて骨子案を作成いたしますので、それを策定委員会にて確認してもらう形になります。

【 委員長 】

ここまでの内容を一度整理して大まかにご説明をお願いします。

【 事務局 】

まず骨子の確認について、アンケート結果の分析だとか含め、庁内検討委員会と事務局で骨子案を作成していくというような形で考えております。骨子案を形成した後、策定委員会で案を固めていただきますので、順序的には庁内検討委員会を先に開催する設定にしております。策定委員会では、骨子という形で計画の大枠、構成、概要を主に確認していただきます。

策定スケジュールについては、現時点で9月と11月に庁内検討委員会と策定委員会を設定しております。こちらについては、事務局と庁内検討委員会で計画自体の素案のたたき台案を作成後、計画の内容の確認をしていただく流れになっています。

その流れの中で、確認作業を一度増やすかどうかについて協議していただきたいと思います。

【 委員長 】

11月の策定委員会後にある程度計画素案が確定したうえで、パブリックコメント及び教育委員会への報告に進んでいくという流れになるかと思います。

パブリックコメント後はほぼ修正はないという認識でよろしいですか。

【 事務局 】

パブリックコメントで出てくる内容によりますが、現時点で大幅な修正は想定しておりません。

【 大賀賀委員 】

別な話題にはなってしまうのですが、他市のスポーツ推進計画をみると関係機関や団体へのヒアリングという方法でも意見集約を行っているみたいですが、市民の意見回収はアンケートのみでよろしいのでしょうか。他の方法での意見回収を行う予定があるかどうかについても併せて教えていただきたいです。

【 事務局 】

資料への記載が漏れてしまい申し訳ございません。

秋口に意見交換会という形で体育団体や一般市民の方々と交えて意見を伺う場所を設けることを予定しております。

【 大賀賀委員 】

PTAの方々やスポーツクラブ等の民間企業の方々など、より多くの市民の声を聞くためにも意見を言える場としてぜひ検討をお願いいたします。

【 鷹栖委員 】

会議の回数は計画作成の進み具合にもよりますので、今の段階での判断ではなく、次回会議開催時に柔軟に判断できればいいと思います。

【 委員長 】

今の意見について、皆様のご意見としてはいかがでしょうか。

【 富澤委員 】

庁内検討委員会と策定委員会のセットとなっているので、庁内検討委員会の回数等を考慮するとある程度必然的に回数は決まっていくかと思います。現時点では回数を多めで予定しておき、もし必要がなければ調整していけばよいのではないのでしょうか。

【 委員長 】

それでは、暫定的に会議回数を増やし、もし省けるようであれば調整していくということによろしいのでしょうか。

【 一同 】

問題なし。

【 事務局 】

スケジュールについては、暫定的に会議回数を増やした形で作業してまいります。引き続きよろしくお願いいたします。

議題２ 和光市スポーツ推進計画の総括について

【 事務局 】

前回会議より各課からの数値を取りまとめたうえ、前回計画の総括をスポーツ青少年課にて作成いたしました。

数値については新型コロナウイルス感染症の影響もあり軒並み低下しておりましたが、その中でも取組みが行えている点と以前課題として残る点については、ある程度明確にすることができました。

単独の事業としてはスポーツ青少年課や保育施設課など各課において事業開催ができたものの、新たにスポーツを始める人たちの増加には繋げきれておらず、地域との連携や周知方法の見直しなどが求められる状況であるのが今の和光市の状況である、と整理させていただいております。

今後、アンケートや意見交換会などで市民からの意見を回収したうえ、現計画の最終的な評価を行いたいと思います。

【 委員長 】

事務局からの説明を受けて質問等ございますでしょうか。

【 大多賀委員 】

前回の会議でも指摘させていただいたのですが、施策内容と数値目標の関連性が不透明です。本来は大目標とそれに基づいた施策があって、施策に対する目標値を設定しないとその施策が達成されたかどうか分からないので、次回計画で何をすべきかという評価ができないですね。

なので、今回計画を立てるときには整理する必要があるかと思います。

現計画では大目標である「週１回スポーツをする人の割合を５５％以上にします」というものに対して、中間見直しの時点では割合の上昇は見受けられない他、１８歳以上の市民のうち約５０％以上の人が全くスポーツをやらないと回答しており、前回調査時と同

等の回答となっていることから、「一市民スポーツ」が定着していないことが分かります。

また、同調査からスポーツをやらない理由として「仕事、家事、育児、勉強などで忙しく時間がない」が一番多い理由となっており、この忙しく時間がない人たちへの新しいアプローチが求められることやスポーツ情報で不足しているものとして突出して「スポーツをできる場所や施設の情報」が多いことから、施設関連の情報がないことによりスポーツをするきっかけを失っているので情報提供の仕組みやあり方を変える必要がある」という風に現計画中間見直し時に課題分析が行われています。

ですので、これらに対して何か施策を打った結果、解消されたかどうかについて総括には最低限記載されなくてはいけないのですが、いただいた資料の中ではそれらにあたる記載がなかったので、入れる必要があると思います。

ちなみにこれに対応する施策が現計画の中に提示されているか、記載を探してみました。が、ほぼありませんでした。「全庁的な推進体制」とか「学校、スポーツ団体、民間企業との連携、共同」といった記載しかなかったので、せめて第2期計画では具体的にどういったことをすべきか、策定委員の皆さんとディスカッションしたいです。

参考資料としては、前回会議にいただいた第3期スポーツ基本計画概要の計画構造及び記載内容を使用していくのがいいかなと思いました。

【 委員長 】

私も現計画策定委員として責任を感じながらお話を伺っております。

また、役所内にて計画実施期間のうちに担当者も変わっていくということで、計画に関して様々な事項の引継ぎをうまくやっていくことも今後の課題となるかと思っています。今までのお話のポイントを抑えながら第2期計画を策定していければなと思っております。

【 事務局 】

貴重なご意見ありがとうございます。

今お答えいただいた課題、計画進行方法、それらに対しての具体的解決案の提示についてのご意見はこちらでも真摯に向き合ったうえ、今後状況整理しお答えできるような形で進めてまいります。

次期計画では大目標があり、それを達成するために中目標、施策の設定を順次行っていくという体系に整理し組み立てていきたいと思っておりますのでお力添えいただければと思います。

【 富澤委員 】

現状分析をしたうえで次の計画へ反映していくということが一番大事になることですが、いただいた現総括ではその部分が少ない印象を受けました。

例えば「プロハンドボールリーグチームである大崎電気の試合開催により観る機会を提供した」ということですが、和光市民デーとして年に1度市民を誘致するだけでは観戦機会を提供したとまでは言い切れないのではないかと思います。

そういった現状認識を改めたうえで第2期計画に結び付けていくことが大事だと思います。おそらくアンケート案についてもそのような認識のもと作成されているかと思われますので、その辺の内容についても十分に精査していかないとアンケート調査に移行するのは難しいかなと思います。

【 委員長 】

おそらく、事務局もそういったものを含めたたたき台としてアンケート案を作成しているかと思いますので、それに対して意見を出して内容を協議していくことが策定委員会の役目かと思います。

なので、ここで意見を回収したうえでそれに基づいてアンケート内容を変更するというところで事務局としてはよろしいでしょうか。

【 事務局 】

今おっしゃられた通り、現総括については前回の数値目標で追いきれない部分が出てしまっているので、本議題およびアンケートについては皆様からのご意見をもとに改善させていただければと考えております。

【 大賀委員 】

観るスポーツについてなのですが、現計画での「する」スポーツは競技スポーツのみの想定なのですが、子どもの試合を親が観るというようなもっと色んなレベルを想定すべきかと思いました。

観るスポーツについて競技の観点や楽しむための観点など多様な視点でどのように取り組んでいくのかを第2期計画では記載できればいいのかなと思います。

【 富澤委員 】

観るスポーツについて、現計画では競技スポーツの観戦に限定したうえでこういう表現をしているかと思われます。スポーツ少年団での活動でも競技をするのが少年少女ですが、子どもたちの活躍を観ながら一緒に支えていく、というのもある意味観るスポーツでしょう。

そういった部分もあることから、実際にスポーツをする以外の観る、支えるといった立場の方々の人口も多いのではないかと思いますので、そういった方々の統計データを取り入れられると、計画に幅ができて良いのではないかと思います。チアダンスなど、スポーツを実際にやらなくてもその周りで支えていく人が多くいらっしゃるので、そういう方々も含めたスポーツ人口についての統計データが必要かと思います。

【 尾野委員 】

私が指導しているチアリーディングチームにおいて、大崎電気の試合のハーフタイムに演技を行うということで大崎電気の試合の観戦機会をいただけたのですが、選手の方々のスピード感や迫力を観て感じるができる初めての機会として良いものでした。

今委員の皆様のお話にありましたように、やはり子どもたちがスポーツをするにあたって親御さんたちは親心としてそういうものを見せたい気持ちもありますし、機会提供をしていただけることで市の子どもたちが何らかの形でスポーツに関わることができるので、今後も継続していただけるといいなと思います。

和光市には観客席も十分に確保できる体育館がありますので、様々な競技を呼び込むことができたなら子どもたちの健全育成にもいいのではないかと思います。

【 委員長 】

貴重なご意見をありがとうございます。

現計画策定時に観るスポーツというところでも観るスポーツというところでは、ビール

を飲みながら気楽に、という話もありましたが、委員会内の協議のうえ、するスポーツへの意識を高めにした点があったので、今回の計画ではそういった広がりのある考え方が出ている印象を受けます。

今までお話のあった中で、「観る」スポーツについてのお話の中に「支える」スポーツについての見方もでした。今後支えるスポーツの定義についてもまた議論の中心の1つになっていくかもしれません。市民の皆様に「観る」スポーツや支えるスポーツを通じて仲間を広げていくという考え方も大切かと思いました。

【 横島委員 】

今の時期、「観る」スポーツは非常に大事になってくると思います。

特にスポーツを専門にする団体はやる側面で事業を捉えがちですが、全年代を対象とした事業等でスポーツに触れる機会を提供していくことで観る機会へと繋げていくことも大切なと思います。

私も観ることは好きなのですが、和光市に限らずの日本全体として中々機会に恵まれない印象を受けます。海外では自分たちの考えを喧嘩するぐらいにぶつけることができるくらい主体的に様々なスポーツへの見方が養われています。スポーツをすることも大事ですが、一流のプレーを観ることも種目問わずよいものを得ることができますので、そういった場を多く設けてPRしていくべきだと思います。

また、市に対する大きな収益を見込めるものとしても観る分野はかなり重要になってくるかと思っています。

【 新井委員 】

現代の住宅環境や新型コロナウイルス感染症の影響もあり子どもたちのスポーツをする機会は激減してしまっています。それに加え暑さも年々厳しくなっていく中で体育館等施設設備は変わらないので、放課後教室で過ごす子どもたちもいます。

スポーツをする場所や環境が充実していくと活発的に活動できるのではないかと思います。

【 委員長 】

ありがとうございます。場所の充実についてもお話いただきました。この話題については、前回からの課題という部分でもご指摘いただきましたが具体的にどれだけのことを市ができるか、ということも視野に入れなくてはいけないことから難しいものになりそうです。

【 藤委員 】

教員として私は児童生徒の指導を毎日しておりますが、例えばスポーツ的要素に限っていえば、例年であれば少なくとも年間で2、3回子どもたちの活動を直接見る機会が小中学校の保護者の皆さんにはあります。まずは運動会。陸上系のトラック競技を観る機会です。中学校であるならば総体や新人戦ですね。これらは保護者の皆様が見に行こうと動いておられます。

ただその一方で、ずいぶん壮大な話にはなってしまうのですが、子どもたちと各御家庭で見た時に、各御家庭が持つ余暇時間を「スポーツをする・観る・支える」へ費やすことができるかというところへ繋げようとしたら、かなり難しいものがあるかと思っています。

今はスポーツに限らず様々な選択肢があります。スポーツ以外の分野で興味関心を持った内容の選択肢を選ぶ方もおそらく相当数いらっしゃると思います。ただ、そこへスポーツを食い込ませようとするのであればこういった種目が考えられるのか、そういったものを市民の皆さんに提示していくことが1つ大きなポイントとなるかと思います。

小学校でいえばここ数年、コロナの関係でできていないのですが6年生の陸上競技大会や5年生のサッカー大会が保護者の皆さんが多く見に来られる機会としてあります。そういったところを踏まえて、そのような提示ができるか、これから考えていかなければならない問題だと思います。

【 委員長 】

ありがとうございます。

そういった意味ではアンケートには観るスポーツの調査もいくつかありますが、市民にスポーツが浸透するためにはどうするかといった部分について考えなくてははいけませんね。

学校での行事における観客は今は制限されているのでしょうか。

【 藤委員 】

コロナ前は制限はありませんでした。ですから、見に来られる保護者や地域の方々がいらっしゃるいましたらぜひ応援してってください、というスタンスだったのですが、今はやろうとすると人数的な制限がかかっているという現状があります。

【 委員長 】

特に最近は、お孫さんの応援で高齢者の方々がいらっしゃるということで新型コロナウイルスの心配もある、ということですね。

【 荒木委員 】

現総括では「障害者向けのスポーツ講座を開催」ということで開催できているという評価がされているのですが、この講座というのはどのようなものが行われているか教えてください。

新型コロナウイルスの影響でできていなかったのですが、社会福祉協議会と市で調整して開催していたチャレンジスポーツ大会という事業については、事業仕分けの影響で毎年やっていたものが2年に1度に変更されてしまいました。

こうしてスポーツ推進計画を策定しスポーツ振興に向けて動いていこうとしているので、ぜひ障害者へのスポーツ機会提供ということで毎年行う方向に戻していただければと思います。

高齢者で運動する人の割合を増やす、ということについては各地域で毎週やっているので、割合としては増えるのではないのでしょうか。

あと、児童センターでも勤めていたのですが、指定管理者の変更も計画期間内でありましたので一概に数値の比較はできないかと思います。

【 事務局 】

「障害者向けスポーツ講座を開催します」ということで、目標値を年度ごとに1回、という設定をさせていただいているのですが、既存の障害者団体からスポーツ講座の依頼を受けて開催している、ということで目標値は達成しているのでそのような評価をさせていただいています。

ただ、先ほど富澤委員からもお話があった通り数値として数回の機会を設けて開催しただけでその目標は達成しているといえるのか、という意見もありますので今後現計画総括も含めた評価方法の見直しを図って改めて評価できればと思います。

また、施策の実施については今後の取り扱いや課題を洗い出しすることで次につながる評価ができるよう今後も作業を進めて参ります。

【 荒木委員 】

一部種目は総合福祉会館でも実施しているので、そういうものであれば社会福祉協議会としても協力できるかと思います。

【 委員長 】

ありがとうございます。

いただいた現データについては庁内各課からの数値となっておりますので、この後どのようにアンケートに組み込んでいくか協議できればと思います。

【 鷹栖委員 】

先ほどから観るスポーツの話題がよく出ております。こちらについてですが、やはり観るスポーツは観ることによってその後の「する」や「支える」ことに繋げることが重要かと思います。和光市の現計画ですとハンドボールリーグの開催がありましたが、この機会提供というのは必ずしも和光市内で完結する必要はないと思います。例えば埼玉県は西武ライオンズや浦和レッズ、埼玉ブロンコスなど、メジャースポーツで活躍する多くのプロスポーツチームがあります。それを例えば和光市で開催するという話ではなく、市民がどれくらい見たことがあるか、愛着はあるのか、そういった視点から観るスポーツを検討いただいてもいいかなと思います。

【 副委員長 】

現計画策定時から続いている感じで「する」スポーツというと、どうしても頭では競技スポーツが出てしまいます。「観る」となると試合会場にいて観戦するイメージ、「支える」というとボランティア、というイメージが出てきてしまうのですが、今回様々な話を伺った段階で、支えるにはスポーツ少年団での送迎や飲料水の準備等保護者の活動なども十分に含まれるのではないかと思います。「観る」でも、競馬や競輪はギャンブル的要素がありましたが最近若い女性の間で人気が出たり、和光市では梶原悠末さんがオリンピックに出場されるするなど人気が出ております。こういったことから、「する・観る・支える」についてもっと幅広く見直していくと、潜在的に関わっている人たちが出てきてスポーツに関わっている人たちの割合も上がるのかな、という印象を持ちました。現計画策定におけるアンケートを実は私も回答しているのですが、アンケートを記載しているときにこれは当てはまるのか、これはスポーツをやっているに入るのかと考える時がありました。アンケートの取り方というのも見直していく必要があるかなと思います。

話を聞く限りですと、和光市のスポーツ人口の割合は決して低くないと思います。これからの問題としては、65～70歳といったお金も機会もない年代をどうやって引っ張っていくかなどが挙げられていくかとは思いますが、そうなったときに役所内の各課の繋がりはどうなっているのでしょうか。担当者同士で集まってスポーツに関する討議をやる機会を設けたりしているのか、それともやはり縦になって各課で話が進んでしまうのか。各

課で連携して体力テストを行わせたりとやり方はあると思うので少し考えていただければと思います。色々なやり方が出てくると思いますので少し楽しみがあります。

【 委員長 】

ここまで多くのご意見ありがとうございます。

皆様が言っていた内容をもとに今後総括の作成をお願いいたします。

議題3 市民・児童向けアンケートについて

【 事務局 】

前回実施したアンケートを参考に、アンケート案を作成いたしました。

アンケートの実施方法について、一般向けアンケートは、市内在住の18歳以上80歳未満の方で無作為抽出した1000名を対象に実施する予定です。

アンケートの実施方法については、調査用紙を配付し、返信用封筒で送り返していただくものになりますが、対象者がインターネットでの回答もできるよう調整を進めているところでございます。

児童、生徒向けのアンケートについては、市内の小中学校にご協力いただき、市内小学校に通う小学5年生の児童及び中学2年生の生徒合わせて約1,300人を対象にアンケートに回答していただきます。

現在の和光市のスポーツ環境の現状把握において、必要となるアンケート項目等がございましたらご意見をいただければと思います。本日の会議にていただいた意見を調整し、7月中旬に各市民及び児童、生徒に対して、配付する予定となります。

【 委員長 】

アンケートの質問の追加や削除、または内容変更について、先ほど挙げた事項などをもとにした意見はございますでしょうか。それぞれの立場から具体的に見ていただければと思います。

【 大賀賀委員 】

市民向けアンケートのほうで、「あなたは誰と一緒に運動やスポーツをすることが多いですか」という質問の回答選択肢として「スポーツクラブやサークルなどの仲間」という選択肢があります。ここである程度聞きたい内容はとれるのですが、その前に回答者が「クラブやサークルに加入しているかどうか」が聞けたらいいかなと思います。こういった形でスポーツに参加するのかということです。

もう1点、計画の中で「総合型地域スポーツクラブを設置する」という目標が立っていて、今回いただいた現総括としては見通しが立っていないという評価ですけども、市民が総合型スポーツクラブに対して何かニーズは持っているのか、というのは聞き取りしてもいいのかなと思いました。存在を知らない人もいるのではないかなとも思うので、あったほうがよいというか、そういうことを聞くのもありかなと思いました。

あとは、「誰と一緒にスポーツをすることが多いですか」というところで、他の市のアンケートでは競技団体が入っていましたが、このアンケート案には入っていないので、選択

肢にすでにある「スポーツクラブやサークルの仲間」に含まれるのかもしれませんが、競技団体の項目があった方がいいかなと思いました。

大きいところでいうと、「スポーツ指導者に求めること」を聞き取りしている市町村もありました。現計画の中では指導者育成ということが全く触れられていないのですが、市がスポーツ振興するにあたり、市民は指導者に何を期待しているのかということを知っておくと育成競技はもちろん身近なスポーツ指導者をどのように育成していくかに繋がるかと思います。あとは部活動における指導者の状況も鑑みるべき、とも考えます。

小中学校の中で部活動の指導者を外部委託するという話題も出ており、市における現状をもとにどう対応するかというのも計画に関連するかと思いますので、そういった市内における指導者の状況も聞けるといいのかな、と思いました。

【 副委員長 】

今の部活動は参加するのは強制ではないのですか。

【 藤委員 】

強制ではありません。

【 副委員長 】

本人の意思で部活動加入については決めることができるので、俗にいう帰宅部のお子さんも多くいらっしゃるということですね。

【 藤委員 】

市内中学校で本当に帰宅部の子どもたちがいるかどうかは私も明確には答えられないのですが、基本的には「何かしら取り組んでみよう」という指導をしています。

あともう1つ付け加えるとしたら、校内の部活動以外で課外のクラブチーム等で活動している生徒も一定数存在します。

【 委員長 】

ありがとうございます。

今大賀委員がおっしゃった質問については、少年団等を含めたクラブに加入しているかどうかというところですが、設問のどの部分であれば入れられるでしょうか。

【 事務局 】

学校教育担当課である学校教育課では毎年在学のお子さんがどの部活に何人入っているか統計を取っているので、今回のアンケートでページ数や質問構成の関係により追加記載等難しい場合には、そういった資料を補強として使用することによってよろしいでしょうか。

【 大賀委員 】

それでも良いと思います。

私が想定していたのは成人の方々に、生涯スポーツの観点から団体加入の有無のデータも必要かなと思いました。

【 委員長 】

設問の調整をできる部分は限られているということですね。

【 事務局 】

皆様からの具体的なご指示を受けたうえ、全部採用できるかどうかについては調整いたします。

【 大廻賀委員 】

設問の回答にて該当選択肢を選択していただければ団体所属しているかどうか分かるのですが、複数回答にて必ずしもクラブで活動している人がここで該当選択肢を選ぶかどうか分からないです。ただ、これが前回から続いている項目だとあまりいじらないほうがいいかとも思いますので。事務局で総合的に判断いただければと思います。

【 委員長 】

今のお話を聞いて考えたのは少年団の指導者側の方々なんかはどのような選択をするか考えたのですが、そちらもスポーツクラブへの参加ということになると想定した場合には、追加記載が必要かと思ったのですが、そのところはどうか。

【 横島委員 】

自由記述の項目を設ければよろしいのではないのでしょうか。

【 富澤委員 】

先ほどから話題に挙がっている観戦側や指導する側もスポーツに参加しているという認識について、設問にある「あなたは誰と一緒に運動やスポーツをすることが多いですか」という質問の最後の部分を「～することもありますか（指導者・お手伝いの立場も含む）」といった形に変更していただいて、支える側の表現を入れていただけると、解決するのかなと思います。

【 荒木委員 】

私が気になった点としましては「障害者スポーツに参加したいかどうか」の設問についてです。今は健常者と障害者が共生する時代ではあるので、あえて聞く必要がないかと思っています。

【 富澤委員 】

「和光市勤労福祉センター」は10月より施設の一部廃止が決まっており、アスレチックルームがなくなりますが、回答選択肢としてはどうされるのでしょうか。

【 事務局 】

ここでの記載は実施場所という形での整理になりますので、勤労福祉センターのアリーナをご利用ということであればあくまでも体育施設として勤労福祉センターを利用、という形での整理になります。施設の中の区分までは回答を求めないような設問をになっております。

【 富澤委員 】

あと、表紙の文章表現について「市では令和5年度に和光市スポーツ推進計画の策定を控えることになりました。」の部分と「基礎資料として～」という言い回しは違和感を感じるので修正すべきかなと思いました。

【 事務局 】

該当部分については見直したうえ修正いたします。

【 大廻賀委員 】

「主にその施設で運動やスポーツをしますか」という質問にて、その他で回答していただければいいのですが、公園・道路・遊歩道・海・山といった体育施設だけでなく野外で取り組むフィットネスについても実施状況を調査できればいいのかなと思いましたのでご

検討ください。

【 事務局 】

アンケート案を作成するにあたり、道路で運動というのはどうなのか、という議論があったことから案の時点では外しておりました。ただ一般的にウォーキングやランニングというと道路でやるのがほとんどかと思いますが、その辺りは検討させていただきます。

公園については、アーバンアクア公園や樹林公園という選択肢はありますが、市内の公園という選択肢はなかったので、その部分についても今一度整理させていただきます。

【 鷹栖委員 】

スポーツの定義についてですが、このスポーツの定義は現計画のアンケート時のスポーツの定義と揃えたということですよ。第2期計画では国のスポーツの定義ではなくて和光市の過去との整合性をとったとの理解でよろしいか確認させていただければと思います。

なぜこれを聞いているかという、国のスポーツの定義とは異なるので、結果が出た時に国との比較ができなくなりますけど和光市的には問題がないか確認したかったためです。国との比較は計画に入れないことを前提としているのですよね、ということです。

この他にもいくつかございまして、「あなたは誰と一緒に運動やスポーツをすることが多いですか」の設問の回答について、私は少なくとも実施種目の確認は行ったほうが良いと思います。次の項目にて観戦種目について詳細を聞いていますが、これはするスポーツにおいても聞いていたほうがよいです。そうしないとこの設問とその後の項目をクロスしたときに課題が明確にならないと思います。

また、「観る」スポーツ・「支える」スポーツの項目について、どちらにも共通して回答者の意欲を聞いていたほうがよいと思います。そもそも興味がないのか、どちらともいえないのかを確認し他の質問項目とクロスすることで参加したい人がなぜ参加できないかを明らかにできると思います。そもそも参加したくない人に聞いても意味がなくなってしまうので、そこは確認したほうが良いです。

あと、小中学生向けのアンケートなのですがフリガナ等の小学5年生向けの配慮がもう少し必要かなと思いました。

最後にアンケートの総論についてですが、全体を見て仮説が想像しづらいかなと思いました。アンケートの集計結果の想定を行い項目ごとのクロス集計やそれらを受けての施策に向けて準備していくことで、実際の集計結果が出てからの作業がスムーズになるかと思っていますので、その想定をしたうえでアンケート内容の修正をされたほうがよいかなと思います。

【 事務局 】

観る状況や支える状況についてやそれらに対する意欲というのは確かに重要なポイントとなりますので整理していければと思います。

【 委員長 】

先ほど鷹栖委員がおっしゃったスポーツの定義について、他の委員の皆様はどのようにお考えかご意見を伺えればと思います。事務局としては現計画の内容を受けて日常生活でのちょっとした移動や階段昇降などもスポーツに含んだとは思いますが、これについて和光市の中で比較していくか、国と比較できたほうがよいのか、お聞かせいただいてもよろ

しいでしょうか。

【 富澤委員 】

アンケート案の中の定義はあくまでアンケートを取るための市としての定義づけなので、計画策定時には日本スポーツ協会のものが採用されるのではないかと思います。現状を踏まえて分かりやすい記載にしたのではないかと推測します。

【 事務局 】

ここまで多くのご意見をいただきありがとうございます。

アンケートでご提供いただいたものをどうするかコンサルタントの方とも調整が必要になる部分がございますので、ここまでのご意見以外のその他ご意見についてはFAX やメール等にいただいたうえ、ここから先は委員長一任のうえ事務局とコンサルタントにて調整させていただいてもよろしいでしょうか。

【 一同 】

了解しました。

議題4 その他

【 事務局 】

第3回会議についてはスケジュール通り9月下旬を予定させていただいております。日程が確定次第、改めてご連絡いたします。

4 閉会